

連載

T u r b o

H A M L O G の

部屋

Turbo HAMLOG開発者

JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第6回

Turbo HAMLOG/Winの環境設定

Turbo HAMLOG/Win (以下, HAMLOGと略します) のオプションメニューから開く[環境設定]について, 本誌 2024年11月号の続きをご紹介します。

環境設定の[設定5]

図1は, HAMLOG のオプションメニューから表示させた環境設定の[設定5]タブです。

図1 KENWOOD-1 or ICOM

ここでは, 八重洲無線のFT-991A と HAMLOG を接続する機能をご紹介します※1。

図1左上では[KENWOOD-1 or ICOM] となっ

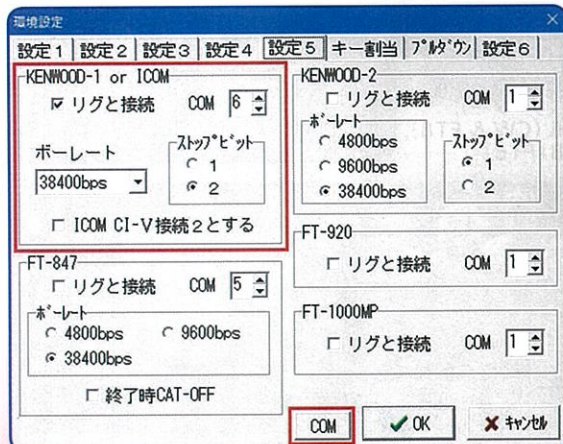


図1 オプションメニューから表示させた環境設定で, [設定5] のタブを表示している。赤枠がKENWOODとICOMの兼用設定の部分

いますが, [ICOM CI-V 接続2とする] のレ点を入れるとアイコムのリグ設定となり, レ点を入れなければケンウッドのリグ設定となります。

最近の八重洲無線のリグでは, リグ制御のコマンド仕様がケンウッドのリグと同じような仕様となっていますので, HAMLOG ではケンウッドの設定で八重洲無線のリグを制御することとしています。

写真1は, パソコンとFT-991A を USB ケーブル

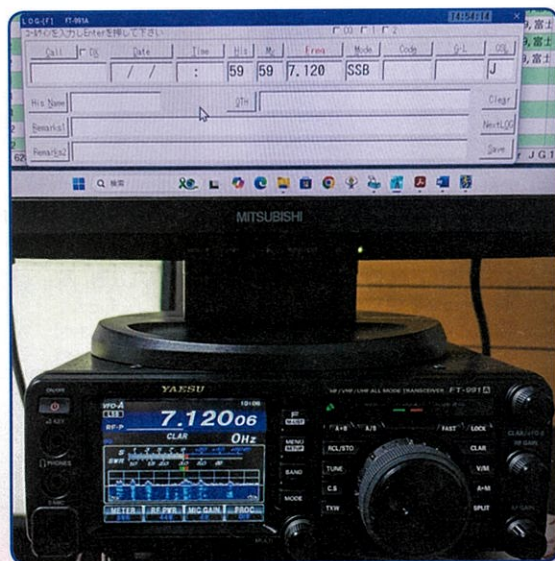


写真1 FT-991A とパソコンを USB ケーブルで接続した状況。周波数とモードが連動している

で接続した状態で、HAMLOGの入力ウィンドウがFT-991Aと連動しています。機能としては、

リグのダイヤルを回したりバンドやモードを変更したりすると、それに連動してHAMLOGの入力ウィンドウの周波数やモードが変化します。

入力ウィンドウの周波数やモードをリグに転送すると、リグの周波数やモードが連動します。

入力ウィンドウの右クリックメニューから、VFOのA/B切替ができます。

入力ウィンドウの右クリックメニューから、リグの送受信切替ができます。

FT-991A との接続の設定方法

FT-991A とパソコンを USB ケーブルで接続しますので、八重洲無線のホームページから「仮想 COM ポートドライバ」をダウンロードし、同ページの「仮想 COM ポートドライバインストールマニュアル」を参照のうえドライバソフトをインストールしてください※2。

FT-991A とパソコンを USB ケーブルで接続してください。

図1左上、[KENWOOD-I or ICOM] の [リグと接続] にレ点を入れます。

図1の COM 番号を選択します。COM は RS-232C という通信ポートの番号です。使用可能な COM 番号は、図1の下の方の [COM] ボタンで確認できます。

図2は、[COM] ボタンをクリックして表示された状況です。図2は USB 接続により COM6 と COM7 が追加された状況です。

図2では、COM6 と COM7、ともに「何らかの原因で使えません。」と表示されていますが、ここは気にしないで図1左上の COM 番号を6に設定します。

写真2は、FT-991A の [MENU] ボタンを押して表示させた通信速度です。工場出荷時の [CAT RATE] は 4800bps となっていますが、写真2のように通信速度を 38400bps に変更しました※3。



写真2 FT-991A のディスプレイ。[MENU] ボタンを押して通信速度を設定している状況

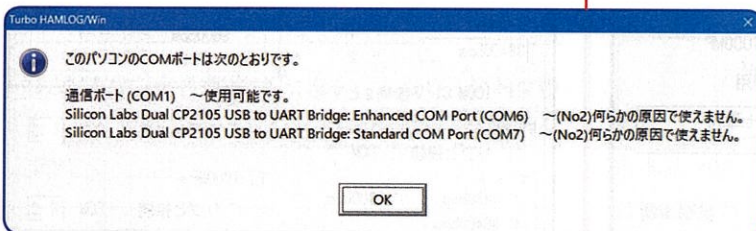


図2 環境設定の[設定4]タブや[設定5]タブの[COM] ボタンをクリックした状況。パソコンの COM ポートの状況が表示される

※1 FT8 の場合は、WSJT-X や JTDX でリグ接続の設定をします。FT8 以外は運用しない場合、HAMLOG のリグ接続設定をする必要はありません。

※2 次の URL からダウンロードします。

https://www.yaesu.com/jp/amateur_index/driver/comport.html

※3 通信速度は、FT-991A の [MENU] ボタンで変更できます。「FT-991A CAT オペレーションリファレンスマニュアル」の2頁を参照ください。筆者の環境では、4800bps では FT-991A の反応が悪いときがあり 38400bps に変更したら快適でした。

図1のボーレートは、HAMLOGとリグとの通信速度です。FT-991Aの設定と合わせてください。図1では38400bpsとしました※3。

「ストップビット」は図1のとおり2を選択します。

「ICOM CI-V 接続 2 とする」にはレ点を入れないでください。

最後に図1の「OK」ボタンをクリックし、HAMLOGを再起動させてください。

HAMLOGを再起動させたら、入力ウィンドウの右クリックメニューから「入力環境設定」を選択します。

図3は、入力環境設定の「リグ接続設定」タブです。入力ウィンドウごとに設定することができ、図3はLOG-[F]の設定です。

図1の環境設定の「設定5」タブで「KENWOOD-1 or ICOM」を設定していますので、図3のように「KENWOOD-1」を選択してください。

図3の「FT-2000/9000」に黒色のレ点を入れてください。「FT-2000/9000」のチェックボックスは、

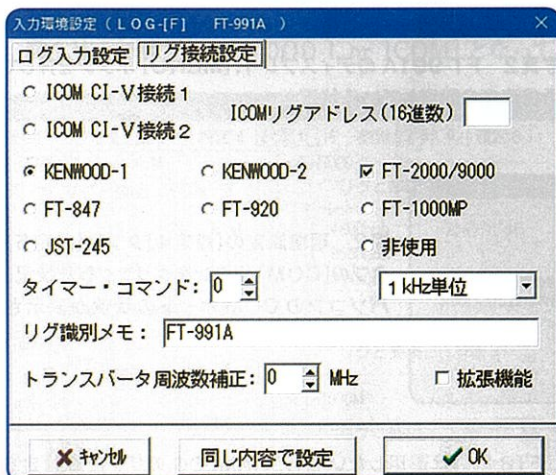


図3 入力環境設定の「リグ接続設定」タブ。入力ウィンドウごとにリグとの接続を設定できる

レ点なし／淡色のレ点／黒色のレ点の3段階ですので注意してください。

図3のタイマー・コマンドは、ゼロとしてください。

図3の「リグ識別メモ」に記載したリグの名称は、入力ウィンドウのタイトルバーに表示されます。図3では、FT-991A と入れました。

図3の「拡張機能」にはレ点を入れないでください。

図3の「トランスバータ周波数補正」は、トランスバータを使用しませんのでゼロです※4。

最後に「OK」ボタンをクリックして設定完了です。

TS-590Gとの接続の設定方法

続いて、ケンウッドのTS-590GとHAMLOGを接続する機能をご紹介します※1。

図4 KENWOOD-2

図4は、環境設定の「設定5」タブです。

TS-590GとパソコンをUSBケーブルで接続しますので、ケンウッドのホームページから「仮想COMポートドライバ」をダウンロードし、同ページの説明を参照のうえドライバソフトをインストールしてください※5。

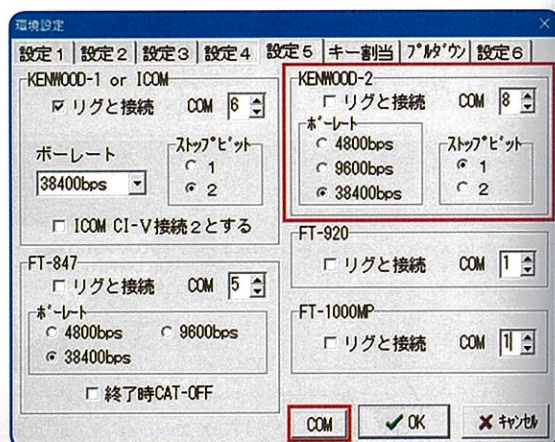


図4 環境設定で、「設定5」のタブを表示している。赤枠の部分がKENWOODの設定

※4 例えば、自作トランスバータによりHF機の28MHz帯を使って144MHz帯にオンエアーする場合、 $144 - 28 = 116$ ですので、この数値を116にすれば、リグの表示が28MHzのときHAMLOGの入力ウィンドウの表示は144MHzとなります。

次に、TS-590G工場出荷時のUSBポート通信スピードは115200bpsになっているようですが、HAMLOG側がこれに対応していませんので、TS-590Gの設定を変更します※6。

TS-590Gの電源を入れ、メニューの68番でUSBコネクター通信スピードを次のように変更してください。

通信速度：38400bps ストップビット：1

TS-590Gのメニューを終了して電源を切り、パソコンとUSBケーブルで接続してからTS-590Gの電源を入れてください。

HAMLOGを起動し、図4右上、[KENWOOD-2]の[リグと接続]にレ点を入れます。

図4のCOM番号を選択します。使用可能なCOM番号は、図4の下の方の[COM]ボタンで確認できます。筆者のPCではFT-991Aのときと違い、図2の表示が「使用可能です。」となりました。

図4のボーレートは、HAMLOGとリグとの通信速度です。TS-590Gの設定を38400bpsとしましたので、図4のとおりHAMLOGも38400bpsとしてください。

[ストップビット]は図4のとおり1を選択します。

最後に図4の[OK]ボタンをクリックし、HAMLOGを再起動させてください。

HAMLOGを再起動させたら、入力ウィンドウの右クリックメニューから[入力環境設定]を選択します。

図5は、入力環境設定の[リグ接続設定]タブです。入力ウィンドウごとに設定することができ、図5の場合はLOG-[B]の設定です。

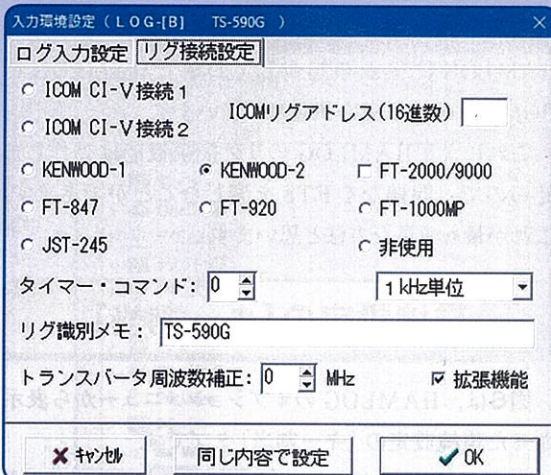


図5 入力環境設定の[リグ接続設定]タブ。入力ウィンドウLOG-[B]の設定

図4の環境設定の[設定5]タブで[KENWOOD-2]を選択していますので、図5でも[KENWOOD-2]を選択してください。

図5のタイマー・コマンドは、ゼロとしてください。

図5の[リグ識別メモ]に記載したリグの名称は、入力ウィンドウのタイトルバーに表示されます。図5では、TS-590Gと入れました。

図5の[拡張機能]にはレ点を入れてください。

[トランスバータ周波数補正]はゼロです※4。

最後に[OK]ボタンをクリックして設定完了です。

WSJT-XやJTDXとの リグ接続併用について

本誌2024年11月号でも書きましたが、FT8の場合はWSJT-XやJTDXでCOMポートを使用します。そのため、前述のHAMLOGのリグ接続用のCOMポートがWSJT-XやJTDXなどとバッティングしてしまいます。

※5 次のURLからダウンロードします。なお、筆者のPCではFT-991A用のドライバーソフトのまま問題なく動作しました。
https://www.kenwood.com/jp/products/amateur/vcp_j.html

※6 TS-590Gの取扱説明書のPCコントロールのページ(71頁)に通信速度の変更方法が記載されています。

筆者の場合は、WSJT-XやJTDXを先に起動し、HAMLOGは後から起動してわざとHAMLOGをCOMポートエラーの状態にしています。

これによりHAMLOGのリグ接続機能は動作しませんので、問題なくFT8を楽しむことができます。これが最も簡単な方法だと思います。

環境設定の[キー割当]

図6は、HAMLOGのオプションメニューから表示させた環境設定の[キー割当]タブです。

各操作をキーボードで行うためのショートカットキーの割り当てを設定します。交信中によく使う機能は、マウスでクリックして操作するよりもキーボードを

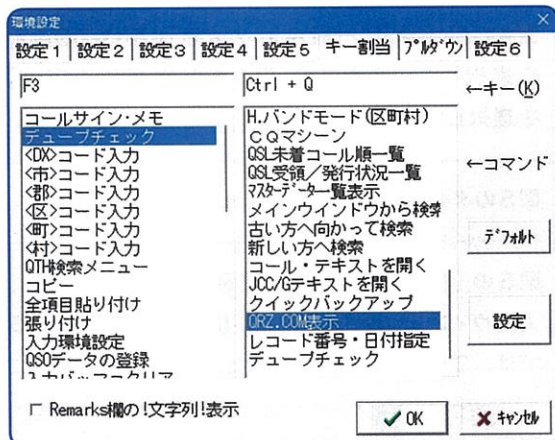


図6 オプションメニューから表示させた環境設定で、[キー割当]のタブを表示している

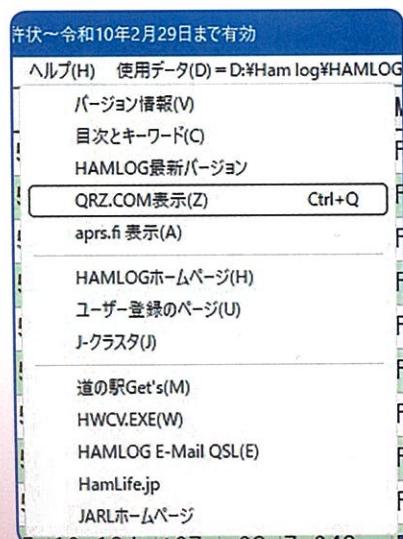


図7 ヘルプメニューの[QRZ.COM表示]を選択している状況

1～2回押すだけで済ませるほうが効率的です。

図6の左側は主に入力・修正ウィンドウのショートカットキーで、図6右側はメインウィンドウの検索メニューや入力・修正ウィンドウでのQTH検索のショートカットキーです。

図6の右側では[QRZ.COM表示]にCtrl+Qキーが割り当てられていますので、[Ctrl]キーを押しながら[Q]キーを押すと、ブラウザーが起動して入力ウィンドウ上のコールサインまたはメインウィンドウ上のコールサインでQRZ.COMを表示します。

図7はヘルプメニューで、[QRZ.COM表示]の右側にCtrl+Qと表示されています。これが割り当てられたキーです。

図6では[QRZ.COM表示]の上に[クイックバックアップ]がありますので、このキーを割り当ててみましょう。クイックバックアップは、少ない操作でQSOデータを圧縮バックアップする機能です。

図6のコマンド欄、[クイックバックアップ]の行をクリックして選択します。

図6のキー(K)欄、図6ではCtrl+Qと表示されているボックス上をクリックしてカーソルを点滅させます。または[クイックバックアップ]の行をダブルクリックします。

図6のキー(K)欄のボックス上で設定したいショートカットキーを実際に押してみます。例えば、Ctrl+Bキーです。

図6の[設定]ボタンを1回クリックします。他の機能にもキーを割り当てる場合は、これらを繰り返します。

最後に[OK]ボタンをクリックすると、設定した内容が登録されます。

図8は、HAMLOGのファイルメニューを開いた状態で、クイックバックアップにCtrl+Bキーが割り当てられているのが分かります。

図9は、メニューが表示されていない状態のままCtrl+Bキーを押してクイックバックアップによるフォルダ選択ウィンドウが表示されています。ここで[OK]

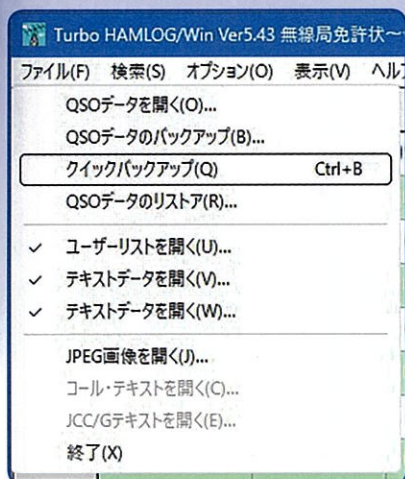


図8
ファイルメニューの
「クイックバックアップ」を選択している
状況

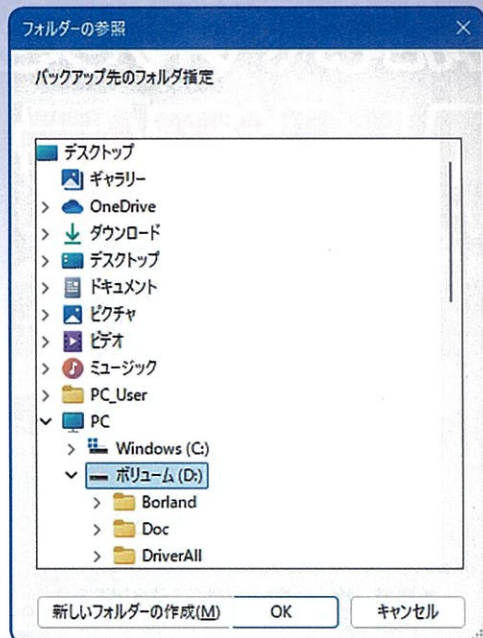


図9 クイックバックアップによるフォルダ選択ウィンドウが表示されている

ボタンまたは Enter キーを押せば、即バックアップします。

なお、図6の「キー割当」では、Windowsで一般的に決まっているショートカットキーは割り当てないほうがいいでしょう。

また、キーを割り当ててもうまく動作しない場合は、他のキーと設定が重複している可能性がありますので、よく確認してみてください。

図6 Remarks 欄の! 文字列! 表示

図6の下部、「Remarks欄の! 文字列! 表示」にレ点を入れておくと、QSOデータのRemarks欄に!と!で囲んだ文字列があれば、2nd-QSO以上のときにそ

の文字列が交信履歴のタイトルバーに表示され、タイトルバーが数秒間点滅表示されます。

例えば、A局との交信データのRemarks 1かRemarks 2に「!アンテナを譲ってもらった!」と記入しておくと、次回のA局との交信時、交信履歴のタイトルバーが点滅表示されて目立ちますので、お礼を言うのを忘れずに済みます、hi。

それでは、次号に続きます。

㊞㊞

Column

本稿執筆にあたり、CQ 出版社から FT-991A を、JVC ケンウッドから TS-590VG をお借りして動作を確認しました。ありがとうございました。

八重洲無線のリグをパソコンから制御する場合、CAT コマンドという仕様で制御します。

HAMLOG では Ver4.43 (2000 年 9 月) に FT-847 を、Ver4.45 (2000 年 11 月) に FT-920 / FT-1000MP をユーザーからお借りして対応しましたが、現在の八重洲無線の CAT コマンドとはそれぞれ仕様がまったく異なるものでした。

その後 Ver5.08 (2007 年 7 月) で FT-2000 / FT-9000 をお借りして対応しました。この頃から現在の FT-991A などまで、CAT コマンドの基本的な仕様は同じと思われます。

実機では確認したことはありませんが、FTDX1200 / FTDX3000 / FTDX101 / FT-710 / FTDX10 など同様の設定で動作できるものと思います。

また、ケンウッドのリグとの接続にあたっては、Ver4.43 (2000 年 9 月) に TS-690S を、Ver4.48 (2001 年 7 月) に TS-2000 をユーザーからお借りして対応しました。

TS-590G については HAMLOG で使用する程度の基本的なコマンド仕様が TS-2000 と同様と思われ、簡単に動作させることができました。